

はーとtoはーと

vol.22
2011. AUGUST

東日本大震災 災害派遣報告



- ▶患者様の声
- ▶日焼け後のケア
- ▶病診連携調査報告
- ▶ラウンジきりん亭



連載
企画

PRESTIGE OF SHIN-KOMONJI HOSPITAL

【第8回】 社団法人 巨樹の会 新武雄病院 院長
社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 脊髄脊椎治療センター長 西田 憲記インタビュー

地域のニーズに応えられる様な病院を目指して

新小文字病院基本理念 「手には技術 頭には知識 患者様には愛を」

【第8回】 社団法人 巨樹の会 新武雄病院 院長
 社会医療法人財団 池友会 新小文字病院 脊椎脊椎治療センター長 西田 憲記

インタビューアール：村中耕平 撮影：小堀隆広

PRESTIGE

OF SHIN-KOMONJI HOSPITAL

Q、先生のご出身は？

高知県土佐清水市足摺岬（あしずりみさき）です。

実家に帰るためには新小文字病院からだど8〜9時間程かかりますのでちょっとした外国に行くより遠いです。交通の便が悪いので。

Q、幼少期はどんなお子さんでしたか？

田舎の小学校だったので複式学級でした。一年生から三年生までと四年生から六年生までが一緒の教室でした。当時は「神童」と言われていました。（笑）

Q、なぜ医師になろうと思ったのですか？

母親が学校の先生だったこともあり教育熱心でした。長男は医師、次男は弁護士、三男は政治家にする目標があったようで幼少の頃から一種のマインドコントロール的なものもあったかもしれませんが、自然と医師の道に進んでいました。

Q、脊椎脊椎外科に進んだ理由は何？

私は元々脳神経外科だったのですが、今でこそ治療法も確立され助かる患者さんも増えてきていますが、当時私が脳神経外科をしていた時代は手術しても患者さんが寝たきりになるケースが多々ありました。当時は、今のようにはリハビリも十分発達していなかったですから、命は助かっててもマヒが残ったり寝たきりになるケースが多かったです。患者さんが良くなるというイメージがなかなか持てなかったです。一方、その当時の脊椎脊椎外科はMRIもない時代でしたから、本当に手さぐりの状態でした。しかし、それでも脳神経外科で頭の手術をした場合よりも、脊椎脊椎外科で脊椎の手術をした方が患者さんやそのご家族からも「ありがとう」ございます。助かりました。」と感謝され、患者さんが見るからに良くなっていく姿がうれしく脊椎脊椎外科に非常に興味を持ちました。

Q、新武雄病院移転に関しては？

病院のある地域によって特性があると思います。福岡和白病院と新小文字病院を比較しても地域に住んでいる人の年齢層や職業も違っていると思います。武雄という街は農業に従事されている方が多く、他の地域と比較しても高齢者の多い地域にあります。病院というのは地域医療に根差した病院になっていかないとけないので、私達の病院のやり方を患者さんに押し付けるのではなくて、その地域の患者さんが求めているものを、私達が病院の中で患者さんの求めているものに合う様に変えて行かなければなりません。

福岡和白病院のやり方や新小文字病院のやり方をそのまま持つていても病院として患者さんにとってメリットは全くないはず。地域の方々のニーズに合わせるような病院の形態をこれから作り上げて、今まで市外や県外で治療を受けている地域の方々にも武雄で十分な治療を受けられるような体制を作らなければならぬと思います。

Q、本を出版されるきっかけは？

出版に関しては以前から言われていたのですが、私は本を出したりすることは好きじゃなく否定的でした。しかし、今まで自分がしてきたことを一つの形……つまり、「文字」という形で残すのも良いかと思いつき、色々と言わなければならぬ出版することになりました。

実際に、私は手術で合併症の出た患者さんのことや、特徴的な症状や経過のある患者さん、あるいは遠方から来られた患者さんのことを日記感覚で記録をしていました。旧小文字病院に赴任した時から、少しでも手術の合併症を減らしたいということが頭にあり、且つ同じような過ちを繰り返さないようにするためにそういった記録をしていました。本の出版のお話を頂いた時にどういった形でも良いと言われたので、この記録に残っている人たちのインタビューを中心に構成してもらえたら良いと思い出版に至りました。

地域のニーズに応えられる様な
 病院を目指して

にしだ けんき
 西田 憲記
 あしずりみさき
 高知県土佐清水市 足摺岬出身

新小文字病院の前院長であり、現脊椎脊椎治療センター長。かつて、新小文字病院移転という一大プロジェクトの陣頭指揮を取ってきた男だ。そして、全国初の公的病院民間譲渡で揺れた新武雄病院（旧 武雄市民病院）の移転でも陣頭指揮を取った男でもある。また、ある医師は『神の手 福島孝徳先生の手術を見学した時は非常に驚いたけど、西田先生の手術を見た時も技術の高さに驚いた』とその腕を絶賛。スタッフ・患者及びその家族からの信頼も厚く、その人柄に魅かれる者も多い。脊椎脊椎外科の事、新武雄病院移転の事、…素顔の西田が全てを語った！

東日本大震災災害派遣報告

総務課 二木 大義

はじめに、東日本大震災で被災された方々、またご家族・ご親戚が被災された方々へ深く追悼の意を表しますとともに、被災地の一日でも早い復興を心よりお祈り申し上げます。

私は、3月11日14時46分 日本三陸沖付近でおきたM9.0の大地震の災害派遣に参加しました。一度目は3月20日～22日の3日間、宮城県名取市閉上港付近（人口：約7,000人）にて、被災された方々の検視業務（被災で亡くなられた方々の検死）に当院救急救命部部長長嶺医師・門司区医師会 久米医師・私を含む事務員2名の4人で構成されたチームで行って参りました。

当時まだ震災の影響・被害も大きかった為、北九州空港を出発、羽田空港経由山形空港→陸路のルートで約8時間かけて宮城県に入ることになりました。到着したのは20日深夜、街は電気が消え落ち着いた感じがあり私の第一印象は「ここはTVで見

たよりもさほど震災の影響は無いな」といった感じでした。翌朝21日 検視業務のため宮城県警の待つ検視場所（旧増田体育館）に行き業務を行いました。私たちが行った検死は全部で19名。そのほとんどが溺水による死亡、また高齢の方々がほとんどで所持品などがなく身元不明の方が多かった印象があります。検死を終え、夕方少し時間が許したため検視場所からさほど遠くない閉上港（ゆりあげこ）に行くことが出来ました。閉上港は私たちが宿泊していた場所から車で約5分程度の所にあり普段は静かな港町と伺いました。車で走っていると民家や店舗が建ち並び中、ちよつと線路の様なガードをくぐる地点からいきなり景色が変わり、荒れ果てた光景が目飛び込んできました。私は、完全に言葉を失い被災の現実をただじっと車から見ているだけでした。地震発生から約10日後の現地入りという事もあり、車や家屋の残骸が山のようにいたる所に残っているためどこから手を付

ければよいか分からない状況が続き、海外の災害救助隊・自衛隊・警察・救助隊の方々も瓦礫の撤去より救助者・遺体を懸命に捜索していました。海外の救助隊の中には南アフリカ共和国の方なども応援に来ていました。閉上港の被災の印象は、15～20m以上の津波が押し寄せてきて、人、建物などすべてを一瞬にして飲み込んでしまったんだなと思いました。本当に悲惨な状況でした。

二度目は3月26日～29日の4日間、福島県いわき市（人口：約336,000人）へ原発問題・被災の影響で避難所生活が続く被災者の診療援助を行うため当院救急救命部 医長 佐道医師・行橋市医師会 矢津医師・看護師2名・放射線技師1名・事務の計6人で構成されたチームで参りました。当時いわき市は避難所39箇所、避難者1,466人という状況の中、各県からの派遣チーム・ボランティアチームが常時8～10チームほど医療活動をしておりいわき市医師会の方々が中心となり避

難者の体調などを考え避難所の回診スケジュールを立てており私たちは医師会の指示する避難所を回診しました。避難所は大小様さまざま学校・公民館・いわき市の体育館・展示場などが利用されており避難所当たりの避難者は9人～200人超の規模でいわき市内に点在していました。

回診業務を始めた頃は震災から2週間後位でしたから各避難所は食料・飲料・薬などの物資がある程度行き



届いており避難所の方々が飢えなどで困っているという印象は持ちませんでした。ただ、避難所の食料のほとんどが菓子パン・カップラーメンのため、お米も全く無く避難所の方々の栄養状態が食料によってかなり偏っており栄養障害を起こす危険性も強まっていました。当時私たちの印象は急性期疾患の患者の心配より、慢性疾患の持病をもった方々の医療フォロー・高齢者の方々へのリハビリ・避難者の栄養管理が早期に必要なであると思いました。

いわき市もまた宮城県と同じく港が多くあり小名浜港・四倉港・久ノ浜などがあります。私たちが回診した地区は避難所もあることから比較的震災の影響は少なく日常生活がある程度できる状態でした。しかし、海側の港はほとんどが津波の影響で壊滅状態、また久ノ浜は福島第一原発から半径30KM圏内という事もあり全く手つかずの状態でした。町は廃墟のような様相で人影もなく自衛隊・救助隊なども全くおらず、ただ津波の爪痕が残っているだけでした。今回の東日本大震災で感じたことは、震災から約1週間程度で物資が被災地に届きだし私たちが派遣された頃には全国各地から救助隊・医療チー

ム・ライフラインの回復の援助をする各企業・ボランティアの方々が多く入ってきており本当に心強く思いました。

また、町のいたる所に「がんばろう、いわき・がんばろう、東北・がんばろう、日本」のスローガンをみて災害支援の我々が被災地の方々に励まされているような気がしました。

今回の震災による影響・被害は想像を超えるものがあり悲惨な結果となりましたが、この経験は今後の私たちに大きな自信、「日本は一つになれる」という自信を持たせてくれたと思います。

2度とこのような震災が起こらないようにいろいろな分野で取り組みがなされると思います。私も何かこの経験を活かせる機会・場所があれば必ず伝えていきたいと思っています。また、私達、新小文字病院は今後も継続的に募金活動や節電活動を行います。皆様の温かいご支援・ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

がんばろう、
日本。

You are NOT alone

～ひとりじゃない～



▲行方不明者の捜索へ向かう消防隊員ら



▲津波の被害を受け街は壊滅状態に



▲各医療班との引き継ぎ



▲現状を把握する派遣メンバー



▲ヨウ素剤の配布について



▲放射線被ばく量についての説明

患者様の声

その1

■この度、初めて貴院にお世話になりました。幸い症状が軽く一泊二日の入院で済みました。病室まで来るまでは良かったのですが、病室で着替えてからが不安でした。就寝までのタイムスケジュールが分からないからです。「何時からどうする」ときちんと説明があったら安心出来ると思いました。

回答

貴重なご意見ありがとうございます。
患者様の立場を考慮しますと、確かに不安に思う部分があると思います。今後の課題とさせていただきます。

その2

- 両替機やATMを設置してほしい。外出する手間がかからなくて済む。
- 銀行のATMがなぜ無いのでしょうか！（娘が困っていた。急な病院の支払いの時に駅まで行った。）
- 新しい病院なのにATMが無いのはどうしてですか？遠くから入院しに来る人にとっては、ATMが無いのは本当に不便です。今どきの病院は、ほとんどあるのに！！
- 有難うございました。単身で入院したため外部との連絡が難しく苦労しました。でも、院内の生活は楽に過ごせました。一つポケットバンクがあると助かります。是非、来院者、入院者、見舞客にも大変便利になると思います。貴院のご発展を。

回答

貴重なご意見ありがとうございます。両替につきましては、会計までお申し付け下さい。また、ATMについては多くのご意見を頂いています。しかし、ATMは当院が自由に設置できるものではありません。ですので、現金以外の清算方法として、クレジットカード・デビットカードでのお支払い方法も用意しておりますので、そちらをご利用下さい。

この夏
うっかり
焼いてしまったら

skin care advice

日焼け後のケア

紫外線対策

をしていたつもりでも、うっかり日焼けしてしまった場合は、その後の対処で肌トラブルを防ぐことが出来ます。

● 皮膚トラブルを引き起こす強い紫外線は UV-B !!! ●

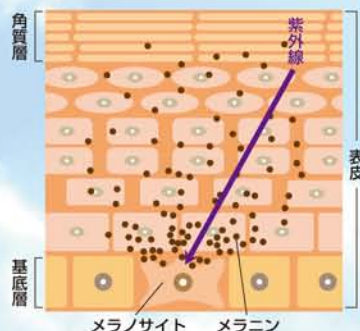
日焼けの種類には UV-A が原因で起こるサンタン（皮膚が黒くなる日焼け）と、UV-B が原因で起こるサンバーン（皮膚が赤くヒリヒリとした炎症状態になる日焼け）があります。

● 日焼けは火傷!!! ●

ほんのり赤くなった、多少ヒリヒリする程度の日焼けは第一度熱傷で、特別な治療は必要ありません。水疱ができた、痛みもジリジリと酷い、発熱を伴うような日焼けは第二度熱傷の状態まで進んでいます。この段階だと、自己判断での処置は逆効果で、やけどによる傷跡が残ってしまったり、感染症を引き起こしたりする危険性がありますので、皮膚科を受診しましょう。

● 日焼けをしてしまったら?? ●

- ①冷やす !!・・・とにかく冷やして皮膚を沈静化しましょう！
- ②水分補給 !!・・・日焼け後の肌は乾燥しやすくなります。体の内から肌に潤いを！
- ③保湿 !!・・・化粧水などをあらかじめ冷やしておくとう効果的！なるべく肌に刺激の少ないものを使いましょう！



皮膚は、表皮、真皮、皮下組織という3つの部分からできています。日に当たると皮膚が赤くなってしまふのは一番上の表皮が、紫外線によって火傷を起こしてしまうためです。紫外線は光の波長が長いので、皮膚の奥まで届いて肌の内部にあるメラノサイトという細胞を刺激します。そして、細胞からメラニンという黒い色素が排出されることで肌が褐色になり、日焼けとなります。

- ※皮が剥けてきた場合、無理にはがすのは絶対にやめましょう。自然に剥けるのを待つか、お風呂に浸かって皮膚が柔らかくなったときにやさしく撫でて処理して下さい。
- ※ビタミンCは日焼け後の肌を回復させるのを助けます。

病診 連携 サービス実態アンケート調査集計結果報告

昨年に引き続き 2011年 4月に「病診連携サービス実態調査」を行いました。

地域の先生方に、当院の地域医療連携システムを評価して頂き、今後の地域医療連携サービスの向上に役立てたいと取り組んでいるものです。

紙面の都合上、全てを掲載することはできませんが、アンケート結果及び沢山のご意見に関しましては今後の病診・病病連携に役立てたいと思っております。

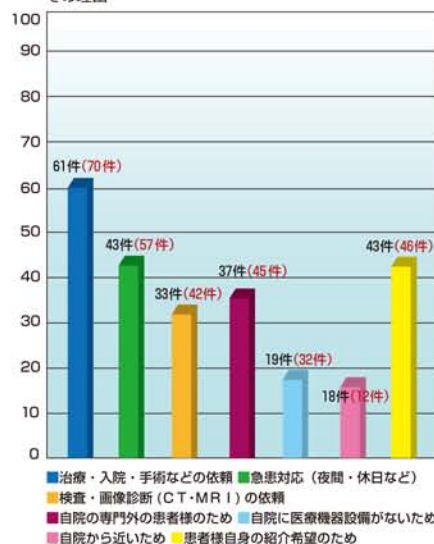
- ▶ 実施期間：2011年 4月 25～5月 20日 ▶ 調査対象：新小文字病院周辺開業医 200 施設
▶ 回答数：72件・調査回収率 36.0% ▶ 回答形式：選択記述式アンケート・無記名

I：当院との医療連携について

当院へ患者様を紹介したことがありますか？

はい **70件** いいえ **0件** (はい **82件** いいえ **0件**)
※()内は昨年の数字です。

その理由

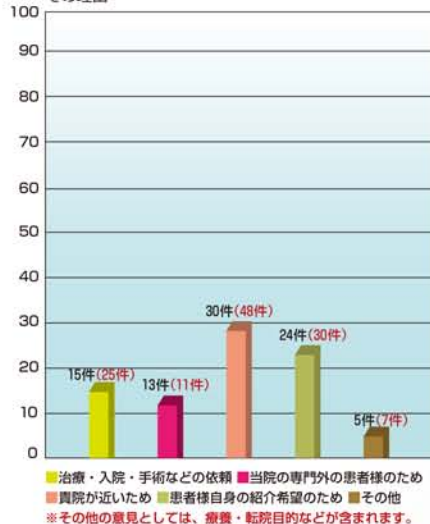


II：当院からの逆紹介について

当院から逆紹介がありましたか？

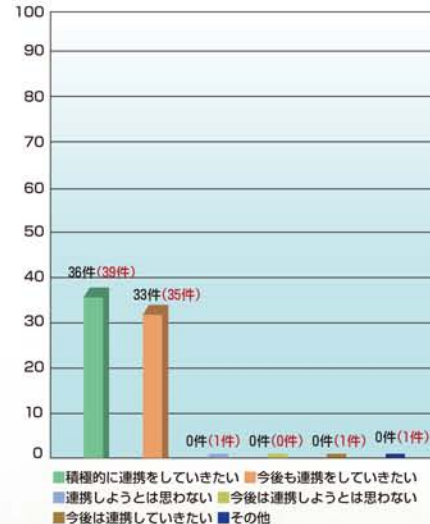
はい **56件** いいえ **13件** (はい **68件** いいえ **14件**)
※()内は昨年の数字です。

その理由



III：全体的な評価について

今後の当院との連携について



◆ 地域の先生方から当院に対するご意見・ご要望 ◆

- ・一年前から患者本位ではなく、医師本位のシステムに変わった様に感じる。システムを変えなければジリ貧になると考えられる。
 - ・病院の努力が非常にわかります。今後も現状に甘んじず努力をお願いします。
 - ・今後とも救急患者受入を宜しくをお願いします。
 - ・門司に移転後は連携がない。しかし、今後はして行きたい。
 - ・小児科を作ってほしい。
 - ・いつも大変お世話になり、ありがとうございます。
 - ・実施して頂いた血液検査や画像検査の結果や初見用紙はコピーでも頂けるとありがたいです。
 - ・いつも時間外にもかかわらずご対応頂き感謝しています。
 - ・医師お見舞い時の駐車スペース確保をおねがしいたい。
 - ・区内の開業医を圧迫する様なやり方だけはして頂きたくありません。
 - ・症状軽減時、退院、外来通院へ戻す時期が少し早すぎる時があるようです。
 - ・救急受診の際に、持参した当院の検査データが行方不明になりました。
- このようなことのないようにお願いします。

ラウンジ きりん亭

早いもので新小文字病院が門司に移転して3年半、広報誌も移転後11号目となりました。そこで、今回はいつもと趣向を変えて当院のラウンジをご紹介します。

新小文字病院玄関から徒歩5秒！

病院の中とは思えないモダンな空間を提供している『きりん亭』にお邪魔しました。

『きりん亭』は患者様も御見舞客の方も職員も利用可能な新小文字病院のラウンジです。うどんは本場讃岐うどんを使用。

カレーは『きりん亭』オリジナルで時間をかけて作っています。

また「日替定食」と「本日の魚定食」もお勧めです。

私や同僚も『午前中いつも以上に頑張った時』、『職員食堂を注文し忘れた時』、『何となく物思いにふけたい時』などに良く利用させて頂いています。

余談ですが、私は夕食のレシピに困った時に『きりん亭』の日替定食を真似しています。この機会にぜひ『きりん亭』にお立ち寄り下さい。



Information

営業時間 / AM10:00 ~ PM6:00
お休み / 日・祝日



診療科目のご案内

内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・外科
呼吸器外科・整形外科・リウマチ科・形成外科・皮膚科
麻酔科・泌尿器科・放射線科・リハビリテーション科
脳神経外科・脊髄脊椎外科・救急科・病理診断科

24時間・365日救急医療を提供します

治療センター

ER・外傷センター
脊髄脊椎治療センター
脳神経センター
ハートセンター
呼吸器センター

外来診療時間

午前 9:00~11:30
午後 2:00~5:00
日曜・祝日は休診

社会医療法人財団 池友会 新小文字病院

〒800-0057 北九州市門司区大里新町2-5
TEL 093-391-1001 FAX 093-391-7001
E-mail : info@shinkomonji-hp.jp
http://www.shinkomonji-hp.jp

◎基本方針

高度医療

学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

総合医療

患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一環した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

地域医療

地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

当院は、館内禁煙とさせて頂いております。喫煙者ご自身の健康のためにも、受動喫煙の害を防ぐためにも、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。